

# みやまりんどう

令和7年度（2025年度）学校通信 第11号 令和8年2月25日発行



校訓 **苦し難く耐えて猛進せよ**

## 一番つらい試合があったからこそ、頑張ろうと思える 校長 近藤 伸

第25回オリンピック冬季競技大会がイタリア北部のミラノとコルティナ・ダンパッツォで開催され、様々な競技で日本選手の活躍に興奮した毎日でした。そして、上川町出身の二人のスキージャンプ・オリンピック（高梨沙羅選手・勢藤優花選手）は私たちにいろいろなことを教えてくれました。

そんな中で、メダルには届かなかったけれど、勢藤選手がインタビューで「一番つらい試合があったからこそ、頑張ろうと思える」という言葉が強く印象に残っています。

北海道新聞 2月6日（金）朝刊から抜粋

2023年2月5日、ドイツのビリケン。女子ジャンプのW杯で日本の3選手が表彰台を独占した。3人の笑顔が輝く中、10位だった勢藤選手は喜びの輪から背を向け、ホテルへ向かった。「この競技をやってきて一番悔しい」と心底思った瞬間だった。

前回のオリンピック後、頭に引退の二文字がよぎった。新型コロナウイルス禍もあり、自分に向き合う時間も増えた。「表彰台にも乗っていない。ここでやめたら、この先の人生、中途半端になるかな」出した答えは現役続行だった。オリンピックやW杯などの主要大会で表彰台に立つと心に決めた。明確な目標を定めたことで日本チームの仲間にも「負けたくない」という気持ちが強くなった。同時にチームの仲間でも「他人が表彰台に乗ることがつらくなっていった」その矢先に他の日本人3選手が表彰台を独占した。

勢藤選手が所属する会社は、社員が自分の目標を手帳に書く社風があり、最初のページには嬉しかった時の写真を選ぶのが通例だが、勢藤選手は自分自身が背を向けたビリケンの表彰台の写真を貼り付けて、見たくないものを絶対に忘れないようにしている強い決意。

### 「一番つらい試合があったからこそ、頑張ろうと思える」

挫折・焦り・不安・葛藤・・・。

いろいろな感情を整理して、強い決意を持って目標に向かうことの大切さ。

そして試合後のインタビューで大会を終えた心境を明かしています。

「たくさんの方が支えてくれたおかげで、自分のジャンプに向き合える環境で飛ぶことができたので、本当にこのオリンピックはたくさんの方に支えられたオリンピックだったなと思います」

「良いことも悪いこともたくさんあった4年間ではあったんですけど、今まではジャンプを感覚で飛ぶということが多かったのが、オリンピックを経験して、少しずつ準備することの大切さというのを学んで、ここのオリンピックの場に立てなければ、感じられなかったこともたくさんあるので、このオリンピックでいい成績を残せなかったんですけど、次のジャンプ人生であったり、ジャンプを終えた後の人生にもつながる経験ができたのかなと思います」

「(高梨)沙羅がいなければ、このオリンピックというのを目指さなかったと思うし、沙羅が近くに来てくれたから、私も強くなろうという気持ちにさせてもらったので、沙羅が近くに来てくれてすごく心強かったです。私の中でお手本になる強い選手。これからも沙羅を追い続けられるように頑張りたいと思います」

感謝の気持ち・経験からの学び・仲間への思い・・・。

上高生も強い決意をもって、つらいことがあっても諦めない気持ちを大切にしたいものです。

## 令和7年度学校評価のまとめ1 【自己評価および学校関係者評価と今後の改善方策】

本号では、「教育課程・学習指導」および「生徒指導」についての評価結果と改善方策の概要をお知らせします。詳細は下記一覧表をご覧ください。

教育課程・学習指導では、授業改善やICT活用の取組を進めてきましたが、「総合的な探究の時間」の系統化や中高一貫教育の接続強化など、来年度に向けて具体化すべき課題が明確になりました。次年度は、授業評価の見直しや公開授業体制の再構築などを通して、実効性ある改善を進めます。

生徒指導では、落ち着いた学校生活が維持されている一方、スマートフォン利用マナーや1年生の部活動加入率向上などの課題が示されました。来年度は、生徒主体の活動体制の強化と指導体制の充実を図り、より規律と活力ある学校づくりを推進してまいります。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケート実施、授業改善に向けた協議を行ったが、設問内容と改善行動の連動には課題が残る。</li> <li>公開授業週間は実施時期や期間設定の課題により参観数が限定的であった。</li> <li>遠隔授業（オンデマンド型）を試行的に実施したが、全学年統一運用には至らなかった。</li> <li>「総合的な探究の時間」の体系化は継続課題である。</li> <li>中高一貫教育の教科接続について、実質的な接続強化には至っていない。</li> <li>ICT機器の活用は概ね定着しているが、活用方法に教員間に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究の時間」の系統性明確化に向けた姿勢を評価できる。</li> <li>小規模校ならではの特性を最大限に活かし、きめ細やかな「少人数指導」を学校の全面的な強み・特色として打ち出していくことを期待します。</li> <li>「中高一貫教育の教科接続」を課題に挙げながらも、改善方策には中高一貫に関する記載が見当たらず、今後の在り方や接続強化への道筋が少し見えづらい</li> <li>町全体の教育構想とも連動する重要な柱なので、次年度の計画には具体的なアプローチの明記を求める。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートの設問を見直し、改善行動につながる項目へ精選する。</li> <li>公開授業週間を年間行事に明確に位置付け、実施方法・参観体制を再構築する。</li> <li>遠隔授業の実施手順をマニュアル化し、全教員が対応可能な体制を整備する。</li> <li>「総合的な探究の時間」の年間計画を再整理し、3年間の系統性を明確化する。</li> <li>ICT活用事例の共有を進め、教員間格差の縮小を図る。</li> <li>各教科における授業改善テーマの成果を年度末に検証し、次年度計画に反映させる。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として落ち着いているが、一部に授業不参加や歩きスマホ等の課題が見られる。</li> <li>朝の玄関指導および月1回の頭髮服装指導を実施し、身だしなみの改善傾向が見られる。</li> <li>職員会議において各学年からの情報共有を継続実施し、生徒理解の体制は整いつつある。</li> <li>1年生の部活動加入率の低さが課題。</li> <li>清掃指導を行ったが、教室環境の整理整頓や清掃の徹底には課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が落ち着いて学校生活を送れている現状は日々の指導の賜物だと思う。</li> <li>1年生の部活動加入率向上や生徒会組織の再構築など、生徒の主体性を引き出す改善方策に期待する。</li> <li>スマホ利用等のマナー課題については、学校のみならず家庭・地域との連携した啓発が不可欠であると考ええる。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導強化月間を設定、授業規律・歩行マナー・喫煙防止等の重点指導を実施する。</li> <li>問題行動への初動対応マニュアルを整理し、迅速対応体制を確立する。</li> <li>部活動加入促進キャンペーンを実施し、1年生の加入率向上を図る。</li> <li>生徒会組織（グローバル局含む）の在り方を見直し、生徒主体の活動体制を再構築する。</li> <li>1日防災学校を9月に実施し、避難訓練と連動させて防災教育を体系化する。</li> <li>清掃区域・方法の見直しと年度当初のゴミ分別指導を徹底する。</li> </ul>	

なお、次号では「進路指導」「健康安全指導」「探究活動」「学級経営」について報告いたします。

学校評価を確かな改善につなげ、来年度の教育活動の一層の充実を図ってまいります。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。